千葉製粉
未来づくり with YOU!

わかしお便り

Vol. 23
Wakashio Dayori
2019.7.16

CONTENTS

原料小麦情報……シカゴ市況、麦価・粉価動向など
市場トレンド情報……‘ちばふん’目線で最近の食品市場をご案内
新製品発売状況……イチオシ製品のご紹介
製品原料情報……原料小麦について
雑感

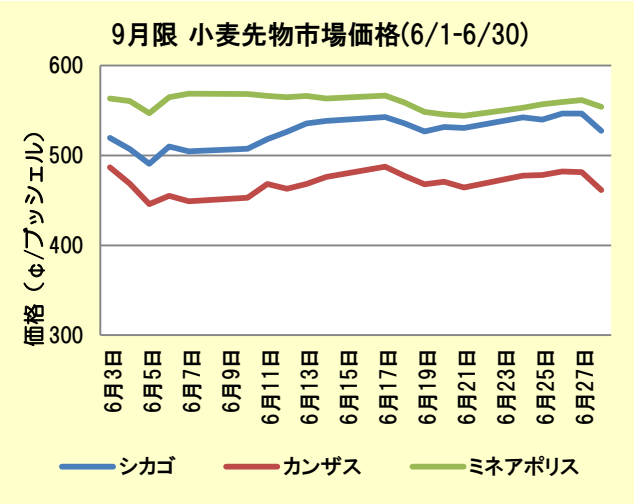
原料 小麦 情報

今シーズンの小麦相場はコーン相場に連動して上下動。

6／1～30のシカゴ穀物相場（9月限）は、¢491～547／ブッシェル（bu）のレンジで推移しました。6月初旬に天候の回復予想が報じられると一時価格は下落しましたが、その後再び米国中西部の長雨によるコーンの作付け進捗の遅れを背景に、相場は上昇基調にあります。また、日本向け冬小麦の産地である米国北西部（ワシントン、オレゴン、アイダホ州）では涼しく乾燥した天候が続いており、平年よりも生育に遅れが見られるようです。

今シーズンの小麦相場は小麦そのものの作柄が影響しているというよりも、コーン相場に連動するような形で上下しており、しばらくはこの状況が続くかも知れません。冬小麦の収穫が進み、数量・品質について大きな問題がないということになれば、価格は一段と下落する可能性もありますが、米国外に目を向けるとヨーロッパやオーストラリアでは干ばつ傾向となっており、今のところ楽観できる状況ではないようです。

国内産麦の生産状況については、東海以西は天候に恵まれたこともあり良好なようですが、関東については 4 月の低温による霜害や収穫期の降雨の影響を受けて、当初の生産計画を下回る見込みとなっています。北海道産麦の収穫はこれからとなりますが、今のところ大きな問題はないようです。ただし昨年も同様の状況で6月を迎え、その後の日照不足から生産量が減少したことを考えると、まだまだ注意が必要です。



麦年度もいよいよ平成から令和へと移ります。今後も引き続き安定した製品を皆様へご提供できるように努めて参ります。

“ちばふん” 目線で最近の食品市場をご案内

スーパーの惣菜コーナーに並ぶ天ぷらにも国産化の波が。

最近、国産の小麦を使ったパンや麺が増えてきたように思います。スーパーマーケットのお惣菜コーナーに並ぶ天ぷらにも「米白絞油使用」「オリーブオイル配合」といった健康志向を強調したフレーズが散見され、また「国産小麦」や「北海道産小麦」の使用を謳った天ぷらも見かけるようになってきました。もはや天ぷら惣菜界でも「国産」はトレンド化されつつあるようです。

日本の消費者は「国産」＝「安心・安全」というイメージを強く持っており、その流れからこうした国産志向の潮流が押し寄せてきているのだと感じます。しかし「国産」であっても、食品である以上「美味しさ」を伴っていなければならず、この両者を兼ね備えた商品を求めるスーパーや外食産業が増えてきています。

このような市場環境の中で、当社千葉製粉の子会社である小島屋食品の天ぷらミックス「花の粋」が、千葉県内や都内のスーパー、横浜や仙台の串揚げ屋さん、天ぷら居酒屋さんや蕎麦屋さん等でご好評を頂いております。厳選した国産小麦を100％使用し、サクサクとした衣の食感の継続性が特長の製品です。また同社製品では北海道産小麦を100％使用した天ぷら粉も、北海道の大手スーパーストア等でご使用頂いております。

さらに「国産小麦」と「国産（新潟県産）米」を融合させた製品「天ぷら粉K」は、新潟県発R10プロジェクトに認定されました。このR10プロジェクトとは、食料自給率向上のため、小麦関連食品の原材料のうち小麦粉部分の10％以上を米粉に置き換えていこうといった主旨のプロジェクトです。「天ぷら粉K」は現在、その軽いサクサクとした衣の食感を活かして、新潟県を中心としたJA新潟関係の各食品メーカー様、へぎそばの有名店、居酒屋レストラン等で使用されています。

新製品発売状況

イチオシ製品のご紹介

最高級パン用粉 「花象プレーリーゴールド」

「花象プレーリーゴールド」はカナダ産1CWだけを使用した最高級パン用粉です。1CW（No. 1カナダ・ウェスタン・レッド・スプリング小麦）とは、パン用として世界で最も高く評価されている小麦で、カナダの西部（サスカチュワン州・アルバータ州など）で生産された一定レベル以上の品質を持つ春まき赤色小麦です。日本には年間で約180万トンが輸入されています。

ではなぜ1CWの評価が高いのか？・・・その理由は、カナダが長年厳格な格付けのもと、小麦の品質を安定的に管理してきたことにあります。その信頼性の高い小麦を100％使用し、長年培った技術を駆使して丁寧に製粉した小麦粉で作るパンは、扱いやすい生地で作業性に優れ、口溶けと喉越しの良い食感の製品になります。是非一度、お試しください。

製品原料情報

小麦あれこれ～世界と日本の小麦生産量

小麦は世界中で生産されており、地球上で最も生産量の多い農作物です。日本では米が最も生産量の多い穀物ですが、世界的に見ると小麦の方が多く、米の約2倍ほど生産されています。

世界の小麦生産量は年間約7億トンで、全穀物生産量の約30％を占めています。地域別では生産量が最も多いのはEU諸国の約1億4千万トンで、国別では中国の約1億3千万トンが最も多く、次いでインドの約9千万トンが続きます。中国とインドは人口が多く消費量も多いため、生産した小麦をほぼ自国で消費しています。またロシアの生産量が近年増えており、アメリカを抜いて世界第3位となっています。ロシアは天候による生産量の変動が大きく、輸出もしているため、ロシアの小麦生産量の変動が世界の穀物相場にも影響を及ぼしています。なお小麦生産量世界第4位はアメリカの約5千万トン、5位はカナダの約3千万トンとなります。

一方、日本の小麦生産量は年間約85万トンで、北海道の生産量が最も多く全体の65～70％を占めており、それに続く小麦生産地は九州、関東となっています。最近国内産小麦の需要が高まっていますが、作付面積が増えず、生産量は需要の伸びに反して増えていないのが現状です。

日本で消費される小麦の量は年間約6百万トンで、日本の1人当たりの小麦消費量は年間約33kgでほぼ安定しています。ただし国内産だけでは賄い切れないため、不足分を輸入に頼っており、国内消費の約86％が輸入、残り約14％が国産という比率になっています。なお国別の輸入割合は、その年の生産量と品質によって異なりますが、おおむねアメリカ約46％、カナダ約33％、オーストラリア約16％、その他5％といった比率となっています。

雑感

東京オリンピックのチケットは見事に完敗。それにしても最近いいニュースがありません。国際的にはナショナリズムによる制裁や貿易紛争。国内では様々な傷害事件や事故があり、とどめは老後の資金不足（一体いくら必要なんでしょう？）。 もし「オリンピックの高額チケットが当たってしまったら自己破産してたかも」と、チケット落選の負け惜しみをしています。

企業の社会的責任・・・？

自分としては高齢者による運転事故が一番気になります。運転免許証を取得した時から、「もし自分が人を殺してしまうとしたら、車による交通事故かも」と漠然と考えていたことが、現実に起きていることを目の当たりにしています。

我が家では車は10年以上乗り続けて廃車にしているため、来年あたり買い替えの時期となっています。次に乗る車、10年目にはすでに立派な「高齢者ドライバー」。自動ブレーキ車を検討しようと思っています。燃費も気になるし、いろいろ欲張ると値段が高いし・・・悩みは尽きません。さらに10年後には、やっぱり自動運転車が発売されているんでしょうね（一体お幾ら！？）

仕事的には企業の社会的責任です。今芸能界では多くの芸人が闇営業で「反社会的勢力」との関わりを持ったことが大きな社会問題となっています。

当社は食品会社ですから、「安全・安心」はもちろん、環境への配慮も大切な社会的責任です。最近では多様化への配慮という理由で「ジェンダー」や「宗教」などによって差別しないことが求められていますが、改めて、反社会的勢力と関わりを持ち、利益供与をしてはいけない責任を痛切に考えさせられます。

最近1か月間で、2件の業務委託契約書の作成に関わりました。「反社会的勢力の排除条項」を入れることが努力義務とされているため条文に記載しましたが、「実際にはそこまで大変なことは起きないのでは」という心理があったことは事実です。

「反社会的勢力」は巧みに近寄ってきますが、そうした組織が「反社会的勢力」であるという証拠を押さえることが難しいという側面もあります。実際に自分の会社が狙われた時はどうするのか、場合によっては脅迫された時の「非常事態訓練」を実施しておく必要はないか等、考えてみる良い機会ではないでしょうか。

＜K・H＞

千葉製粉株式会社
製粉・ミックス事業本部
Tel:043-241-0116　Fax:043-241-0611　E-mail:seifun-mix@chiba-seifun.co.jp

【重要】　本レポートは、あくまで小麦粉関連の情報提供を目的に作成されたものです。
信頼できると思われる 公開情報に基づき作成されておりますが、その情報の正確性・完全性を保証するものではありません。読者の皆様におかれましては上記ご留意の上、ご拝読くだされば幸いです。
皆様に末永くご愛読いただけるよう執筆者一同精進いたしますので、引き続き宜しくお願い申し上げます。